



南部町立南部中学校 学校だより 第5号

千一ム南部中

令和元年 6月4日 (火)

校長 望月和彦

「中高連携」と「小中連携」

本年度、本校は2つの連携事業に力を入れています。1つ目は地元の公立高校である身延高校との連携です。平成25年度から身延中学校と共に連携型中高一貫校の候補校として身延高校との連携事業を進めてきました。成果と課題を検証し課題を改善する中で、本年度より正式な「連携型中高一貫校」としてスタートしました。3校の連携事業には、アシスト授業（高校教員が中3・中2の授業へ）、逆アシスト授業（中学校教員が高1の授業へ）、中学生と高校生の部活動の合同練習、サマーセミナー（身延高校での中3生徒の受験に向けた夏休み学習会）、キャリアセミナー（身延高1年生が中学生に向けて自身の経験や将来の目標について発表する）、高校演劇部顧問による中学生の演劇指導など12の事業があります。その中心となるのが「アシスト授業」です。5月から週2日、身延高校の富田唯我（ゆうわ）教諭が3年生の数学の授業に入り、本校の新山敬教諭と共に数学の指導をしてくれています。単にチーム・ティーチングできめ細かな指導を行うだけでなく、中学の数学と高校の数学との系統的なつながり考えた支援をしてくれています。5月28日の数学では、3年生は因数分解を学習していました。最初に中学校での解き方を新山教諭が説明し理解させた上で、「高校生になるともっと簡単に計算できる方法を学ぶよ。富田先生から教えてもらおう。」と富田教諭にバトンタッチ。富田教諭は「たすきがけ」という高校1年で学習する因数分解の方法を発展的な内容として生徒に分かりやすく教えていました。生徒の理解度や内容の難易度を考えながら、発展的な内容として一部高校の学習内容を授業に取り入れ、より深い理解に結びつけたり、学ぶ意欲を高めたりすることにつながっています。また、高校に入学したばかりで授業のスピードや進め方になれない高校1年生に対して、中学校教員が高校の授業に支援に出向くのが「逆アシスト授業」です。本校からは数学の青木直之教諭と英語の千野彩佳教諭が身延高校の授業に週1日サポートに出かけています。逆アシストは、「高1ギャップ」と呼ばれる高校生活への不適應を、授業の中でサポートする目的もあり、1学期の間、実施する予定です。



2つ目の力を入れている連携は、町内の4小学校との連携です。全国的に、小学校で何も問題なく生活していた児童が、中学校に入学すると急に学力不振に陥ったり、生活面で課題が見られるようになっていたり、時には学校に登校できなくなってしまうことがあります。このような中学校生活への不適應のことを、「中1ギャップ」とか「中1プロブレム」と呼んでいます。小学校では担任の先生が基本的にすべての教科を児童につきっきりで教えてくれますが、中学校では学習内容がより専門的になるので教科担任制をとっています。定期テストは教科担任がつくるようになり、通信表の評価も5段階でより明確に分かるようになります。また、部活動が加わり、早朝、放課後、休日も活動がある上に、先輩・後輩の役割分担もよりはっきりきてより複雑な人間環境に適應していかなければなりません。何よりも思春期を迎え、自我が確立してくる時期なので、様々なことに思い悩む時期でもあります。小学校から中学校に進学する子どもたちに対して、小学校と中学校の教員が情報を交換しながら、一人ひとりの子どもに適した学習指導や生活指導を行うと共に、それぞれに必要なサポート体制を整え実施する中で、児童・生

た学習指導や生活指導を行うと共に、それぞれに必要なサポート体制を整え実施する中で、児童・生

徒のより良い成長を協力して見守っていかうとする取り組みが小中連携です。

小中連携の取り組みの一つとして、5月27日（月）6校時の授業を4小学校の約半数の先生方に参観していただきました。中学校での授業の進め方を見てもらい、小学校の先生方の学習指導に役立てていただくと共に、中学生になった子どもたちの様子を見てもらい、その後、小学校の先生からご意見や感想を伺うことによって、中学校での今後の指導に役立てようとするものです。生徒たちは、小学校時代お世話になった先生方が授業を見に来てくれたことをとても喜んでいるようでした。今年度は、小学校の先生方に中学校の授業を参観していただく機会を10月9日にも予定しています。反対に、本校教員も4小学校の学校開放日に小学校を訪れ、小学校での授業の進め方や児童の学習の様子を参観させていただき、授業づくりの参考にしたり、生徒指導に役立てたりする予定です。

1学期中間テスト終了！「振り返り」が大切です。

5月30日（木）、1学期の中間テストを実施しました。1年生にとっては入学後初めての定期テストでしたが、学級担任や教科担任からテスト勉強の仕方やテストの受け方などが事前に指導されており、当日は校舎全体が静寂の中、全校生徒が真剣にテストに立ち向かっている様子が見られました。定期テストは、授業で一定期間学んで身に付けた力を測るものです。採点されたテストの点数を見て生徒たちは喜んだり、悲しんだりすると思いますが、そのまま振り返らずにどこかにしまい込んで意味がありません。自分ができなかったところはどこなのかを確認し、次に同じ問題が出たら正解できるようにしておくことが何よりも大切です。テストの点数が悪くても、振り返りが行われ、次に同じ問題が出てきたときに正解が答えられるようになっていけば全く問題ないのです。学校でもテストの振り返りの大切さは指導しますが、ご家庭でもお子様のテストへの取り組みを振り返りながら励ましてやってほしいと思います。



地区総体迫る！昨日は総体激励集会。



今週の木曜日、6月6日（木）は峡南地区総合体育大会です。会場や雨天延期時の予定、大会2日目の詳細等については、すでに配布した通知をご覧ください。どの運動部も、3年生にとって最後の公式戦となるこの大会に向け、気合いの入った練習をしています。3日（月）の放課後、総体での各部の活躍を全校で願う「総体激励集会」が行われました。各部部长が総体にかける熱い思いを発表したあと、女子バレー部旗持愛結主将から力強い選手宣誓がありました。そして遠藤真凜団長をはじめとする応援委員が、昼休みや放課後に全校生徒を指導しながら練習してきた「全校応援」「全力校歌」。本番では体育館が震えるほどの迫力で、全校生徒の一体感を強く感じることができました。戦う会場は別々ですが、「チーム南部中」という名の下に、163名と教職員が心を一つにして全力を尽くしましょう。特に3年生は「自分の力をすべて出し尽くした」「3年間やってきて良かった」と思える試合になることを期待しています。

卒業生2名が教育実習中！

5月27日から6月14日までの3週間、平成24年度に本校を卒業した高橋黎さん、佐野佳那実さんの2人が教育実習をしています。2人は共に統合2年目の生徒会役員であり、共にソフトテニス部で関東出場を果たしたがんばり屋です。2人の教育実習生には、この3週間のなかで教員という仕事について多くのことを学んでほしいと思うと同時に、生徒たちには年齢の近い2人の先輩との出会いを大切にして、何かを感じたり、学んだりしてほしいと思います。

